

長野県西駒郷

元地域生活支援センター山田所長講演（H18）資料等より

○考え方

原則：いつでも再入所，権利擁護・相談支援体制，地域生活移行は本人が決める

役割：職員 本人の意思を聴く，出ることを支える応援（9日間の講義）

県 財源をもって施策に込める

民間施設 地域生活移行に真剣に向き合っていただけか

○プロセス

① 本人・家族からの1時間程度の聴き取り「アンケートはダメ」

② 模擬体験→宿泊体験（2週間程度）…ゆったりとした暮らしを体験

③ 何回も本人の意向を「聴く」 ④ 地域生活移行（GH）

⑤ 地域コミュニティとの連携（GH世話人が橋渡し）⑥ 移行後のフォロー

○県の支援

県GH整備補助 補助率1/2（上限1千万円）※西駒郷利用者引受補助率2/3 嵩上げ

実績

○地域移行等 : 293名（H15～27）※事業団立GH等へ

○西駒郷 : H15：500名→H28：125名

国立のぞみの園

H28.10 障害福祉課・事業団調査より

○考え方

原則：入所者全員が対象，本人・家族の意向を丁寧に聞く，家族に負担を強いけない，

出身地に返す，移行後の生活状況のフォロー（再入所も検討）

※独法化を受けたのぞみの園の中期目標の中で，「3割削減」が決められた。

○プロセス

・保護者の同意から日帰り・宿泊体験などをし，意思確認を行う（長野と概ね同じ）

・各都道府県における先駆的事業所に協力依頼（関係者のネットワーク）

○ポイント

職員は「今後も面倒を見たい」との意識だったが，まちの中でのGHの方が，本人らしい生活ができることに気づき，意識が変わっていった。GH利用者は施設帰りたがらない。

実績

○地域移行等 : 165名（H15～27）※GH，GH移行を前提に出身地の施設へ

○のぞみの園 : H15：530名→H28：350名（現員 247名）

大阪府立金剛コロニー

H28.6 障害福祉課調査より

○考え方

府と民間の役割を明確化し、民間で対応可能な分野や民間へ移行する。入所施設から地域生活への移行を着実に進めるとともに、利用者の状態にあった施設へ転換し、大規模施設の再編を図る。

○プロセス（長野と概ね同じ）

- ・再編中は新規入所受入を完全に停止
- ・保護者向け説明会の繰り返しの実施，体験入所の推進
- ・GHに移行した人が再入所する例はあり，「戻ってくる場所」は確保した

○府の支援

GHを整備し，コロニー等の府立施設から定員の半分以上利用者を受け入れる場合，人件費や家賃等の運営費を3年間補助

実績

- 地域移行等 : 392名（H18～27）※重心・特養，事業団立GH等へ
- 金剛コロニー : H15：750名→H29（予定）：180名（事業団立）

愛知県心身障害者コロニー（旧）養楽荘

H28.6 障害福祉課調査より

○考え方

障害者は地域移行を，専門的支援が必要な障害児と医療的支援が必要な障害児者は県で引き続き支援を行っていく。

○プロセス（長野と概ね同じ）

- ・再編中は新規入所受入を完全に停止
- ・保護者向け説明会の繰り返しの実施
- ・GH見学会，移行訓練・体験の実施

○県の支援

入所者受入（35名程度）を前提とした施設建設の公募
→親の会が母体「養楽福祉会」 ※県有地無償貸与，国庫補助採択

実績

- 地域移行等 : 154名（H18～28）※養楽福祉会，GH，身障施設等へ
- 養楽荘 : H18：250名→H28：0名（H28.6廃止）